

WD Live! Workshop Silverlight, Action Program Report



3日間のプレミアムなSilverlightセミナーの様子と 審査員に選ばれた参加者6名の作品を公開！

4月2日、5日、15日と3日間に渡って行われたワークショップ「Silverlight, Action Program」での充実した講義の様子と、参加者が制作し最終日に発表したSilverlightコンテンツの中から、優秀者6名の作品を本人の感想や審査員のコメントと併せて紹介していこう。

本誌では1月号から3カ月に渡り、マイクロソフトが開発した新しいWebブラウザのプラグイン「Silverlight」が持つ可能性と、コンテンツ制作方法などを紹介してきた。クロスブラウザ/クロスプラットフォームで動画やゲームなどのリッチなコンテンツを提供できること、そしてC#やVB.NETなどこれまで大規模なシステムで使われてきた言語で開発できるためそれらを手がけてきたデベロッパーが制作できること、デザインとプログラムを分けて制作できるためデザインの優れたシステム開発が期待できるなどの特徴を備えている。

記事の掲載と並行して、そんな多くの期待を秘めたSilverlightを学ぶことのできる3日間のワークショップ「Silverlight, Action Program」の参加者も募集してきた。授業料無料で「Microsoft Expression Studio」がもらえるなどかなりプレミアムな内容だったこともあり、限定10名の募集枠をはるかに越える応募があった。

初回の4月2日は、ワークショップ一連の説明やSilverlightの概要を解説するレクチャー。そして2回目の5日は、Silverlightコンテンツの制作方法を午前中から夕方まで丸一日集中して学んでいくワークショップ。3回目の15日には、学んだことを活かして参加者が制作してきた作品を発表するプレゼンテーションを行った。

ここでは、2日目のワークショップの様子と、3日目のプレゼンテーション、そしてその中で審査員によって選ばれた優秀作品を紹介していこう。

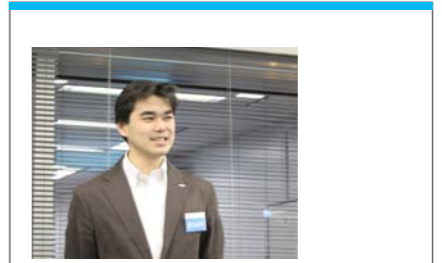
Maker & Teacher's Impressions

Silverlightのプロダクトマネージャーを務めるマイクロソフトの竹内洋平氏、講師を務めたセカンドファクトリーの東賢氏、杉下高仁氏に、3日間のワークショップを行った手応えをうかがった。



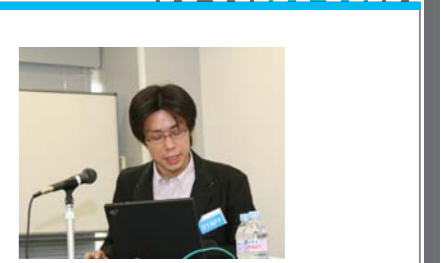
竹内 洋平 (マイクロソフト株式会社)

今回参加されたみなさまの熱意と授業内容の応用力には本当に驚きました。Silverlightに初めて触れる人がほとんどの中で、卒業作品でいろいろな物が作成できたところはさすがだなと思います。また参加者様の現在の仕事の立ち位置によって、Silverlightというプラットフォームの捉え方が違い、そのことによるできあがった作品の違いには、今後のプラットフォームを訴求していく身として非常に勉強になりました。SilverlightもExpressionもパワーアップしていきます、今後もご活用いただき面白い物を作ってください!!



東 賢 (株式会社セカンドファクトリー)

参加された方のほとんどがSilverlightに初めて触れる機会だったと思いますが、大変驚くべき成果を出していただきました。ワークショップを通じてお伝えした内容を成果物にうまく組み込んだり、応用したりと、工夫がたくさんあったことに講師としての喜びを感じました。このように機能をつなぎ合わせるのが簡単に行けるといってもSilverlightのポイントの一つです。世の中にあるSilverlightアプリケーションを参考にし、ご自分のアプリケーションやアイデアとつないでさらなる技術向上につなげていってください。



杉下 高仁 (株式会社セカンドファクトリー)

技術を習得するには、サンプルを理解して作っていただくことが早道だと考えています。セミナーに参加された方々は、お持ちのスキルなどもさまざまですので、初心者の方でもサンプルが完成できるような資料と構成を心がけました。3日目に発表されたみなさんの作品は、Silverlight 2.0を理解し、セミナーでは触れられなかった部分も応用して実現されていて素晴らしいものばかりでした。このセミナーがSilverlight 2.0を始めたらうきかけになれたのではないかと思います。

Workshop 2008.04.05.Sat

01	02
03	04
05	06



「Silverlight, Action Program」2日目は、朝の10時から夕方6時まで丸一日Silverlightの制作方法を学んだ。テキストは10章に渡り、全62ページ(03)。そのボリュームを、サンプルファイルを実際に触りながら理解していく。講師は、連載でも著者を務めたセカンドファクトリーの杉下氏(02)、東氏(05)。その他にも多くの講師がサポートに就き、参加者の質問にひっぱりだこだった(04)。参加者は、日々Web業界の第一線で働く精鋭揃いで、プログラマー7割、デザイナー3割といったところ。普段Flashを使っている人にとっては、アニメーションをさせるのに起点が必要ないことなど、Silverlight特有の感覚に悩むことも多かったようだ。夕方には疲労でダレてくるかと思いきや、最後まで誰も集中力を欠くことのない充実したワークショップだった。

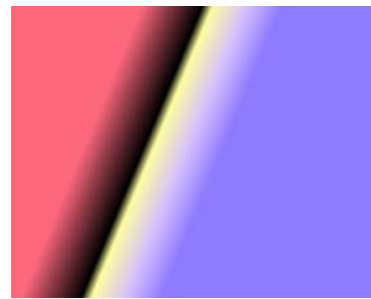
Presentation 2008.04.15.Tue

01	02	03
04	05	06

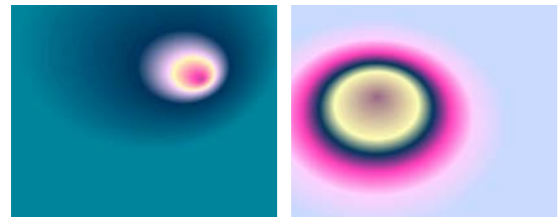


2日目のワークショップで学んでからわずか10日後に、各自制作してきた作品の発表が行われた(01~04)。仕事や学業と並行しての作業で、週末の1~2日程度しか作業時間がとれなかった方が多かったにもかかわらず、審査員陣もびっくりのハイレベルな作品が多かった。ライブラリの活用方法が冴えているもの、サーバ連携しているもの、アイデアやデザインが素晴らしいもの。さまざまなベクトルの良さがあり、マイクロソフト、セカンドファクトリー、本誌からなる審査員陣の選考は難航(05)。最終的に5人の予定だった受賞枠を同率5位を2名として6名に拡張した。1~3位には「Microsoft Windows Vista Ultimate」、4~5位には「Expression Web アドバンスドデザインガイド」と「Web制作会社年鑑」(ともに小社刊)を進呈。その他、全員に「Microsoft Expression Studio」とTシャツがプレゼントされた。Silverlightの可能性を実感できる受賞作品と受賞者による感想は、次のページで紹介していこう。

1位



マウスの動きに同期して色のグラデーションが変わる。丸いもの(02、03)は円の位置もマウスに同期



平岡拓夫(有限会社ギフト/プランナー)

動画配信のポータルサイトを手がけた際にWindows Media DRMでの構築を行い、Macへの配信を諦めざるを得なかった経験があり、その解決策としてSilverlightには期待を持っていました。特に興味を持ったのは、ブラウザブラウザの流から生まれたものではなく、Windowsアプリケーションの流れから生まれた環境であるということでした。僕自身はWeb制作側の人間なので、Silverlightを媒体にして違うフィールドとのコラボレーションをやってみたくです。

この作品は、色を扱うクラスを使って表現方法・表現力を試してみることをコンセプトに8時間ぐらいで制作しました。該当クラスのSilverlight用のリファレンスを見つけれなかったため、クラスの扱い方に関しての具体的なコーディングを試行錯誤しながら進めていった点で苦労しました。1位に選ばれたのは非常に嬉しかったです！これをステップに次は仕事で使ってみたくと思います。

今までに見たことがないようなSilverlightの作品でした。芸術作品の後ろにある複雑なロジックが素敵でした。(竹内)
見た目に大変インパクトのある作品を作ってくださいました。今後C#を使った本格的なロジックによるインタラクション作成などにチャレンジしてみてください！(東)

2位



不動産サイトの物件情報ページ(01)で「チラシを見る」をクリックすると、チラシの画像がDeep Zoomで表示される。チラシは表(02)、裏(03)を表示することができ、消したいときは右側の「閉じる」ボタンを押す。ページ遷移せずに多くの情報を見ることができる



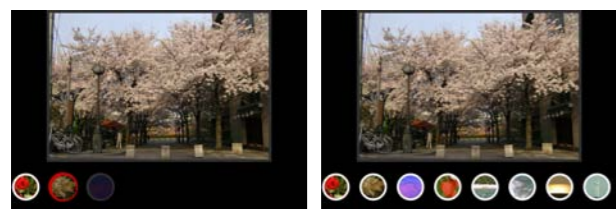
李 ナレ(ポータル会社/デザイナー)

普段、仕事でリッチメディアをあまり使用していないので結構難しかったのですが、セミナーの内容とテクニカルサポートが良かったので何とか無事終わることができました。Silverlightはエンジニアとデザイナーの協業がしやすいのではないかと思います。自身で利用したDeep Zoomは驚くほど簡単に制作できたので、サービスにすぐ適用できるのではないかと期待しています。

作品の制作時間は約半日ですが、制作は2時間ほどで、ソフトをインストールするなどの制作環境を整えるのに3時間以上もかかってしまいました。不動産サイトは予期せぬページに進んでしまうと元のページに戻るのが困難な場合が多いので、「一つのページですべての詳細を閲覧できる」をテーマに、Deep Zoomを使ってページを遷移せずに一目で詳細まで見れたらいいなと思い制作しました。まさか受賞できるとは思いませんでした。ありがとうございました。

Deep Zoomを必要最小限の手間で最大の効果を生む形で利用していただきました。アイデア賞ですが、技術利用の本質を突いた視点だと思います。(東)
Silverlightの機能を実際のビジネスに応用した大変いいアイデアの作品でした。ぜひ近日中に実装してくださいね！(竹内)

3位



サイトにアクセスすると、下部の丸いサムネイルが左から順に表示される(01~02)。XMLで大きな画像のURLを取得し、サムネイルを下に並べている



藤田宗親(Kirksville co.,Ltd./デザイナー)

クライアントからSilverlightの話題が出はじめ、注目度が上がってきているので今回のワークショップを受講しました。一番知りたい所を丁寧に教えていただいたので、今後自分で調べていくにあたってとてもやりやすくなりました。デザインとプログラムが明確に分かれているため、ちょっとしたデザインの変更が多いサイトで便利だと思います。C#というActionScriptよりもシェアの高い言語が使われているため、その財産(ライブラリ)を効果的に使ってみたくと思いました。

制作時間は丸1日ほど。丸くマスクを抜いてその真ん中に画像を表示させるなど、単純なところにつまずきました。C#でイベントのところで使われるデリゲート(イベントのメソッドへの指示)がいまひとつ理解しきれず、まだまだ勉強しなくてはと思っています。技術的にすごいことはしていないので、3位になったのは意外でした。これを励みに、もっといいものを作ろうと思います。

セミナーの内容をよく理解し、応用していただいた好例でした。Silverlightの特徴を活かして、細かいインタラクションを煮詰めてみてください。(東)
Silverlight制作では「いろいろなパーツを組み合わせると作ってしまう！」という例だったと思います。これからもいろいろなサンプルを組み合わせたくさん作ってください！(竹内)

4位



MDI形式の業務クライアントを表現。メニューを押すとウィンドウが出て、押した数だけ表示(01)。最小化ボタンを押すとタスクに格納される(02)。02の赤枠部分をクリックすると新たな詳細表示のウィンドウが表示される(03)



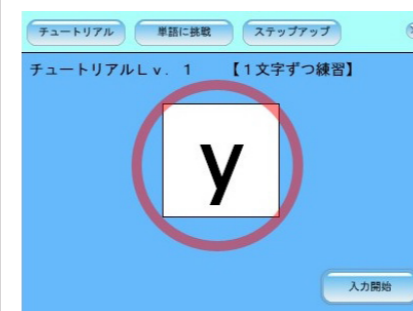
佐野育男(情報システム会社/システムエンジニア)

RIAの業務システムへの適用について検討したいと思い、セミナーに参加しました。残念ながら業務システムには、見た目は二の次という固定概念が根深く存在します。しかし、それらを日々利用するユーザーにとってUX(ユーザーエクスペリエンス)は重要な要素で、訴求力のある価値観だと考えています。

作品制作には日曜日を2回くらい使いました。今回は業務システムへの適用可能性と開発分業の効率について意識しながら評価・開発を行いました。XAMLによるデザインとロジックの分離、業務要件固有のリッチなユーザーコントロールの実現性、ユーザーコントロールによるカプセル化と開発分業、既存Webサービスとの親和性など、業務システム開発に必要な好条件を多く確認することができました。今後も選択肢の一つとして、継続評価・適用したいと考えています。デザイナーの方が多く参加されている中、私の作品は少し毛色の異なるものだったと思っています。今後、他の方とコラボレーションできる機会を楽しみにしています。

セミナーのレベルを飛び越えたリッチなUI作品で、とても刺激になりました。(杉下)

5位



タイピングゲーム。アルファベット1文字を入力するもの(01)から、単語を入れるもの(02)、徐々に浮かび上がってくる単語を予測して入れるもの(03)などのバリエーションがある



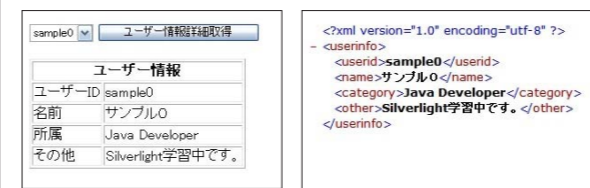
川本論(株式会社ヴァル研究所/プログラマー)

受講した理由は好奇心です。「この技術は伸びる！」と思ったものには手が出てしまいます。受講してみて、今までJavaScriptやCSSで苦勞して書いていたリッチなアプリケーションが簡単に作れて、正直驚きました。

作品は、構想が仕事の合間5分を数回。実装が1コンテンツ2時間程度でした。ダイナミックで見る人の目を引くような技術を2日目に学んだので、提出課題はプログラムメインでいこうと決めていました。そこで、ブラウザ上でのキー入力等のイベントを勉強したいと思い、今回のプログラムを作成しました。苦勞した点は環境です。JavaScriptやCSSのように家で「ばっ」と思いついたアイデアをすぐに実装して動作確認できないので(家にも同様の環境があれば別でしたが…)。5位になったのには、正直びっくりしました。外観(見た目)ではなく、プログラム重視の作品で入賞できて本当に嬉しいです。

新しい技術を習得するためには、作りたいもの、面白いものを作ってみるというアプローチに共感しました。(杉下)

5位



川口貴信(日本アイ・ビー・エム株式会社/ITスペシャリスト)

常々、企業内で使用されている業務アプリケーションのUIの質に疑問を感じていました。RIAの流行している昨今、Silverlightを使って業務アプリケーションのUIをより良い方向へ変えていくことができなかと考え参加しました。とても面白く、将来性を非常に感じました。個人的にはあと1カ月くらい講義を受けていたかったです。BtoBやBtoCのシステムの観点では、DRMが最初から効いているので、コンテンツ提供のサイトなどにはすぐ使えそうです。企業内の業務システムで使用する場合は、XML連携でUIを表現する箇所などがすぐに構築できるのではないかと思います。

作品の制作時間は半日程度。2日目の講義中にSilverlightとJavaの連携(LINQを使って)やってみようと思えました。実現の仕方は今回の方法以外にもいろいろあると思います。他の人の作品はデザイン力・企画力が断然優れていたため、5位になったのは素直に嬉しかったです。



Javaを使った既存の業務アプリケーション(01)に、XMLを返す横道を付け(02)、Silverlightに置き換えた(03)

この短期間のセミナーで、Javaとの連携が見られるとは思っていませんでした。開発の現場でもAPIを起点に整理を行うことは多く、アーキテクチャ検討の原点を確認させていただきました。(東)